平成２８年度事業報告書

Ⅰ　事業の実施概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１

（１）助成事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１

（２）表彰事業～放送文化基金賞の実施と他の賞への参加～・・・２

（３）制作者フォーラムの開催・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３

（４）将来ビジョン懇談会の開催・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４

（５）定期刊行物の刊行・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４

（６）ホームページ等による広報・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５

（７）資産運用検討委員会の開催・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５

Ⅱ　処務の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６

（１）役員、評議員等に関する事項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６

（２）理事会および評議員会に関する事項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７

Ⅲ　付属明細書（資料1～4）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８

公益財団法人　放送文化基金

平成２８年度事業報告書

Ⅰ　事業の実施概要

放送は通信との連携・融合、多メディア、多チャンネルの時代を迎え、現在試験放送が行われている４Ｋ・８Ｋ放送も平成 30 年度より実用放送が始まることになっており、映像表現・放送文化を取り巻く事業環境は今後も大きく変わり続けるであろう。

こうした状況の中で、放送文化基金は、新たな『放送文化』の胎動を敏感に感じ取りながら、計画した事業の着実で効果的な実施に努めた。

助成事業は、研究者の裾野拡大のため、平成26年度に開始した若手研究者等への助成金の増額を継続した。

表彰事業は、放送文化基金賞贈呈式のイベントとしての質的充実を図りつつ、地域放送局制作番組の積極的な評価に取り組んだ。

制作者支援活動事業は、制作者フォーラムを各地の実行委員会との共催によって、「北海道・東北地区」、「北陸・長野、新潟地区」、「中国・四国地区」、「九州・沖縄地区」で開催し、系列や地域の枠を超えた交流の場を地域放送局の制作者等に提供した。また、愛知・岐阜・三重地区での新規開催を目指して、当該地域の民放およびＮＨＫ各局との連携に努め、平成 29 年秋の開催が決定した。

さらに、基金の事業概要を記載したパンフレットのリニューアル、ホームページやバックパネル等のツールを活用した広報・周知活動を展開した。

（1）助成事業

ア　平成28度助成

平成28年度助成要項に基づき、技術開発、人文社会・文化の２分野を対象に公募を行った結果104件の申請があり、助成審査委員会の審査と理事会の審議を経て、最終的に41件、6,000万円の助成を決定した。

（助成対象一覧　資料1）

申請および採択結果は、次の通りである。　　　　（単位　万円）

区　分	申　請		採　択	
	件　数	金　額	件　数	金　額
技術開発	30	7,705	12	2,900
人文社会・文化	74	10,165	29	3,100
合　計	104	17,870	41	6,000

助成金は、平成26年度より3年計画で若手研究者奨励500万円を増額しており、平成28年度も大学院生や非常勤講師など若手研究者からの応募を広く呼びかけた結果、応募、採択ともに40歳以下の申請者の案件が4割を上回り、若手への助成が定着しつつある。

助成金贈呈式は平成29年3月3日に開催し、目録贈呈式と懇親会を実施した。

また、目録贈呈式に先立ち、技術開発部門では千葉大学工学部教授の黒岩眞吾氏による「情報通信技術を利用した失語症向け言語訓練およびコミュニケーション支援技術」、人文社会・文化部門では東京学芸大学教授・副学長の大石学氏による「時代考証学の可能性」に関する研究報告会を開催した。

イ　平成26年度助成事業の実施報告

平成28年10月～11月に開催した其々の審査委員会で、平成26年度に助成した技術開発12件、人文社会・文化33件の実施報告（成果報告・28年6月末締切）について、一件ずつ内容の評価を行った。

（2）表彰事業～放送文化基金賞の実施と他の賞への参加～

ア　第42回放送文化基金賞

平成27年度中に放送された優れた放送番組（番組部門）と、主にその期間に顕著な業績をあげた個人・グループ（個人・グループ部門）を対象に、平成28年4月～5月に開かれた各部門、各分野の専門委員会、審査委員会を経たのち、理事会で合わせて29件を決定した。

応募・推薦および表彰結果は次のとおりである。

（受賞一覧　資料2）

部　　門	領　　域	応募・推薦数	表彰数	備　　　考
番組部門	ﾃﾚﾋﾞﾄﾞｷｭﾒﾝﾀﾘｰ	90	5	最優秀賞1、優秀賞1、奨励賞3
	テレビドラマ	50	4	最優秀賞1、優秀賞1、奨励賞2
	ﾃﾚﾋﾞｴﾝﾀｰﾃｲﾝﾒﾝﾄ	62	4	最優秀賞1、優秀賞1、奨励賞2
	ラジオ	43	3	最優秀賞1、優秀賞1、奨励賞1
	個別分野	—	5	番組部門受賞作品から選定
個人・ｸﾞﾙｰﾌﾟ部門	放送文化	14	4	—
	放送技術	10	4	—
合　　計		269	29	

番組部門の賞金は最優秀賞100万円、優秀賞50万円、各奨励賞30万円、個別分野賞20万円。また、個人・グループ部門の賞金は30万円。

最優秀賞を受賞したのは、テレビドキュメンタリー番組では『第30回民教協スペシャル　しあわせ食堂　笑顔と孤独と優しさと』（青森放送）、テレビドラマ番組『年末ドラマ特別企画　赤めだか』（ＴＢＳテレビ）、テレビエンターテインメント番組『人生フルーツ　ある建築家と雑木林のものがたり』（東海テレビ放送）、ラジオ番組『贄の森』（ＣＢＣラジオ）である。

個人・グループ部門では、放送文化、放送技術でそれぞれ4件が受賞した。

基金賞の贈呈式と懇親パーティは、7月5日にホテルオークラ東京で開催した。

イ　他の賞への参加

ＡＢＵ（アジア太平洋放送連合）番組コンクール、第43回「日本賞」教育コンテンツ国際コンクール、「創作ドラマ大賞」に参加した。

ＡＢＵ番組コンクールの授賞式は、平成28年10月24日にインドネシアのバリで行われ、スポンサーの一員として賞金を贈呈した。

「日本賞」は、平成28年11月2日に授賞式が行なわれ、「企画部門」で最優秀企画に選ばれた『未来は私のもの』（バングラデシュ）に対して放送文化基金賞を贈呈した。　なお、第42回（平成27年）の日本賞「企画部門」で放送文化基金賞を受賞した『ルイスとロバの英語教室』（コロンビア）は、番組として完成し、第43回日本賞コンクール開催期間中に上映会が行われた。

日本放送作家協会とＮＨＫが主催する「創作ドラマ大賞」について、第41回「創作テレビドラマ大賞」の贈賞式は平成28年11月10日に行われ、大賞の『デットフレイ』（佐々木 由美 氏）に賞金 50 万円を贈呈した。第45回「創作ラジオドラマ大賞」の贈賞式は平成29年3月24日に行われ、大賞の『暗闇の訪問者』（藤沢 秋 氏）に賞金50万円を贈呈した。

（表彰結果　資料3）

（３）制作者フォーラムの開催

ＮＨＫ、民放、制作プロダクション等、組織の枠を超えた制作者同士の自由な意見交換や交流の場を設けることを目的に開催している。

平成28年度は、4地区で現地実行委員会と共催して、ミニ番組コンテストと実行委員会の企画によるパネルディスカッションや講演会が行われた。

なお、4地区のうち北信越地区と中四国地区は原則隔年開催となっている。

○北日本制作者フォーラム in あおもり（北海道・東北地区）

＜北海道・東北の民放とＮＨＫ、計40局＞

日　時　平成28年11月18日（金）

場　所　ワ・ラッセ　イベントホール／青森市

参加者　約70名

○北信越制作者フォーラム inふくい（北陸・長野、新潟地区）
＜北陸・長野、新潟の民放とＮＨＫ　計22局＞
日　時　平成28年10月29日（土）
場　所　福井まちなか文化施設　響のホール／福井市
参加者　約50名

○中四国制作者フォーラム inやまぐち（中国・四国地区）
＜中国・四国の民放とＮＨＫ　計32局＞
日　時　平成28年10月29日（土）
場　所　山口情報芸術センター（ＹＣＡＭ）／山口市
参加者　約50名

○九州放送映像祭＆制作者フォーラム（九州・沖縄地区）
＜九州・沖縄の民放とＮＨＫ、計35局＞
日　時　平成28年11月26日（土）
場　所　ＮＨＫ福岡放送局　よかビジョンホール／福岡市
参加者　約90名

さらに、平成29年2月18日（土）に東京で全国制作者フォーラム2017を開催し、上記4地区のミニ番組コンテストで入賞した作品の上映とゲストのベテラン制作者による意見交換、番組を見る会・語る会『家、ついて行ってイイですか？』、パネルディスカッション『テレビの極意～私の番組制作術～』を実施した。

（４）将来ビジョン懇談会の開催

放送を取り巻く事業環境が変化するなかで、放送文化基金の主要事業はどうあるべきか検討するため、「将来ビジョン懇談会」を平成28年9月、12月、平成29年3月の計3回開催した。議論された内容は、放送文化基金賞におけるネット配信番組の取扱い、放送関係者のコミュニティ（例えば制作者と研究者）の提供、ネット社会が深化するなかで“放送の意義・役割をあらためて見直す”大局的な観点からの調査・研究の必要性などであった。

（５）定期刊行物の刊行

平成28年4月に助成対象の研究・事業の紹介とシンポジウム「８Ｋから∞へ～超高精細映像のゆくえ～」の開催などを掲載した広報誌「放送文化基金報」No.. 84を刊行。平成28年9月には放送文化基金賞の受賞者インタビューなどを掲載したNo.85を刊行した。

（６）ホームページ等による広報

ホームページでは事業活動全般について定期更新以外にも随時更新を行い、情報公開と基金のＰＲに努めた。

＜日本語版内容＞

助成決定および成果報告／助成対象のデータベース／放送文化基金賞のデータベース／放送文化基金賞の受賞一覧／助成・放送文化基金賞WEB 申込等システム／各地区制作者フォーラムの開催予告と結果報告／事業計画・収支予算／事業報告／財務諸表／役員・評議員・審査委員名簿／基金の活動を親しみやすい形で紹介する読み物（読む・楽しむ）等

＜英語版内容＞

助成の募集案内、日本賞・ＡＢＵ賞への参加について　等

このほか、基金の事業概要を紹介したパンフレットをＡ４三つ折版にリニューアルし、ビジュアルなデザインを採用するとともに、イベントなどで放送文化基金の存在感をアピールするため、トートバッグやバックパネルを作成した。

（７）資産運用検討委員会の開催

ア 目的等

資産運用の専門性をより向上させるための諮問的機関として設置しており、平成28年9月と平成29年1月に開催した。

イ 主なテーマ

・国内外の経済政策や金利・為替等の見通し

・債券市場や保有債券の分析、資産運用方針の検討等

ウ 構成委員

青木　昭憲　（大和住銀投信投資顧問㈱執行役員）

柿沼　点　（大和住銀投信投資顧問㈱チーフ・エコノミスト）

森　幸嗣　（大和住銀投信投資顧問㈱国内債券運用部付部長）

松原　克美　（放送文化基金会計顧問・公認会計士）

清水　孝雄　（放送文化基金監事・ＴＢＳ社友）

菅　康弘　（放送文化基金監事・日本放送協会経営企画局長）

（幹事）

﨑元　利樹　（放送文化基金専務理事）

Ⅱ　処務の概要

（１）役員、評議員等に関する事項

ア　役員・監事の選任等

第16回評議員会（平成28年6月22日）において、新たに菅　康弘氏が監事に就任した。

菅　康弘　氏　（日本放送協会　経営企画局長）

（任期　前任者の残任期間となるため、平成28年6月22日から平成29年6月の定時評議員会まで）

なお、竹村　範之監事は平成28年6月21日に退任した。

イ　評議員の選任等

（ア）第16回評議員会（平成28年6月22日）において、次のとおり新たに選任した。

吉田　喜重　氏　（映画監督）
山田　太一　氏　（脚本家）
木田　幸紀　氏　（日本放送協会　専務理事）

（任期　吉田　喜重氏および山田　太一氏は平成28年6月22日から平成32年6月の定時評議員会まで。
木田　幸紀氏は前任者の残任期間となるため、平成28年6月22日から平成31年6月の定時評議員会まで。）

なお、板野　裕爾氏は平成28年6月21日に退任した。

（イ）第18回評議員会（平成29年3月9日）において、新たに高橋　正美氏を選任した。

高橋　正美　氏　（日本放送協会　経営委員会委員）

（任期　平成29年3月9日から平成32年6月の定時評議員会まで。）

なお、籾井　勝人氏は平成29年1月24日に退任した。

ウ　審査委員の委嘱

第32回理事会（平成28年7月15日）において、日本放送協会の技術担当理事（技師長）の変更にともなう審査委員会委員の委嘱を行なった。

助成審査委員会委員（技術開発）

春口　篤　氏　（日本放送協会　技術局長）

（任期　平成28年7月15日から平成30年3月31日まで）

平成29年3月31日現在の役員、評議員、審査委員は、資料のとおりである。

（役員、評議員、審査委員一覧　資料4）

（２）理事会および評議員会に関する事項

ア　理事会

開催年月日	主　な　議　案
平成 28. 5. 14 （第 30 回） 書面による決議省略	・放送文化基金賞　審査委員会委員の委嘱について
平成 28. 6. 7 （第 31 回）	・平成 27 年度事業報告および決算について ・評議員候補者の推薦について ・役員候補者の推薦について ・第 42 回「放送文化基金賞」表彰対象について ・平成 28 年度「助成要項」について ・職員の採用について
平成 28. 7. 15 （第 32 回）	・助成審査委員会委員の委嘱について ・職員就業規則の改正について ・職員賃金支給規程の改正について ・助成技術開発審査委員会　専門委員の委嘱について ・放送文化基金「将来ビジョン懇談会」の設置について
平成 28. 10. 7 （第 33 回）	・第 17 回評議員会の開催について ・平成 28 年度事業活動収支施行見込について ・「将来ビジョン懇談会」（第１回）の実施報告について
平成 28. 12. 1 （第 34 回）	・平成 29 年度予算編成の考え方について ・放送文化基金賞関連諸規程の一部改正について ・第 43 回放送文化基金賞「表彰実施細則」について ・育児・介護関連諸規程の一部改正について ・寄附金等取扱規程の制定について
平成 29. 2. 10 （第 35 回）	・第 18 回、第 19 回評議員会の開催について ・平成 28 年度助成の実施について ・平成 29 年度事業計画および収支予算について ・平成 29 年度資産運用計画について ・放送文化基金賞　審査委員会専門委員の委嘱について ・平成 28 年度収支決算収支見込について ・「将来ビジョン懇談会」（第２回）の実施報告について

平成 29. 3. 7 （第 36 回） 書面による決議省略	・ 財団法人東京ケーブルビジョンの解散に伴う残余財産の受贈について ・ 評議員候補者の推薦について

イ　評議員会

開催年月日	主　な　議　事
平成 28. 6. 22 （第 16 回）	・ 平成 27 年度事業報告および決算について ・ 第 42 回「放送文化基金賞」選考結果について ・ 評議員の選任について ・ 役員の選任について
平成 28. 12. 1 （第 17 回）	・ 平成 28 年度収支見通しおよび平成 29 年度予算編成方針について ・ 事業の執行状況について
平成 29. 3. 9 （第 18 回）	・評議員の選任について ・平成 29 年度事業計画と収支予算の編成について ・平成 28 年度助成の実施について ・財団法人東京ケーブルビジョンの解散に伴う残余財産の受贈について ・事業の執行状況について

Ⅲ　付属明細書（資料 1～4）

（資料 1）

平成28年度　助成対象一覧

〔人文社会・文化〕

テーマ	申請者	助成金額（万円）
アニメによる地域活性化:「ガールズ＆パンツァー」を事例に	立教大学社会デザイン研究所 研究員　真田　尚剛	45
続・皇室関係番組の歴史的変遷	神戸女学院大学文学部 准教授　河西　秀哉	25
連続テレビ小説における女性の表象と受容に関する文化社会学的研究	朝ドラの効用と活用による女性文化の発展研究会　代表　稲垣　恭子 （京都大学大学院　教授）	100
NHK音楽番組「みんなのうた」と翻訳―放送文化における音楽ジャンルの形成	九州大学大学院比較社会文化学府 博士後期課程　佐藤　慶治	40
テレビ批判の心理的メカニズムに関する実証的研究	慶應義塾大学大学院社会学研究科 博士課程2年　齋藤　誠子	35
NHK教育テレビが果たしてきたメディアリテラシー機能の検証	茨城大学教育学部 教授　村野井　均	40
ソーシャルメディア時代の世論形成過程	インターネットと世論研究会 代表　安野　智子 （中央大学　教授）	120
マルチタスク・セカンドスクリーンのニュース理解への影響	ニューヨーク州立大学オルバニー校 助教授　山本　昌広	70
アニメ視聴者のTwitter利用の現状から放送事業での効果的なTwitterの活用方法を考える	名古屋大学大学院文学研究科 博士前期課程　出嶋　千尋	20
国際放送とソフト・パワー～BBCワールドサービスと民主主義	慶應義塾大学法学部 非常勤講師　原　麻里子	60
アメリカ公共ラジオ「NPR」の研究:質の高い政治情報への希求とその課題	上智大学総合グローバル学部 教授　前嶋　和弘	100
「声」のラジオ史:米国初期ラジオ放送における声のメディア文化史	関西大学大学院社会学研究科 博士後期課程　福永　健一	50
NHK「ふるさと通信員」からみる地方メディアの一軌跡	「農事番組」研究会 代表　舩戸　修一 （静岡文化芸術大学　准教授）	65
進行性筋ジストロフィー児の「生命」と向き合う教育実践と記録映像に関する研究	戦後障害児教育福祉実践記録史研究会 代表　玉村　公二彦 （奈良教育大学　教授）	145
放送法改正経緯の調査研究	放送法改正経緯研究会 代表　成原　慧 （東京大学大学院　客員研究員）	60
放送アーカイブから探る「上方」放送文化のメディア史的展開	JOBKのメディア史研究会 共同代表　丸山　友美 （法政大学大学院　博士後期課程）	50

〔人文社会・文化〕

実相寺昭雄が手掛けた「特撮番組」の演出・表現手法に関する調査・研究・Web公開	実相寺昭雄資料アーカイブとテレビ演出研究会　研究員　碓井　広義 （上智大学　教授）	135
和田勉関連資料を中心とした初期テレビドラマに関する実証的研究	早稲田大学坪内博士記念演劇博物館 助手　木原　圭翔	130
映像記録シリーズ『放送人の証言』作製作業	一般社団法人 放送人の会 理事　隈部　紀生	65
脚本アーカイブ活動の未来を見据えたシステム構築および教育活用	日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアム 理事　池端　俊策	300
「淡路人形浄瑠璃」草加公演2017	公益財団法人 草加市文化協会 理事長　長谷部　健一	95
アイルランドと日本の邂逅～W.B. イェイツ、ラフカディオ・ハーンと狂言	茂山千五郎家狂言アイルランド公演実行委員会　委員長　真鍋　晶子 （滋賀大学　教授）	135
放送体験教室～放送局の仕事と番組作り体験～	公益財団法人 放送番組センター 常務理事　松舘　晃	105
第17回 日韓中テレビ制作者フォーラム 東京大会	日韓中テレビ制作者フォーラム日本組織委員会　実行委員　渡辺　紘史 （一般社団法人 放送人の会　理事）	230
国際ドキュメンタリー提案フォーラム Tokyo Docs　2017	Tokyo Docs実行委員会 委員長　天城　靱彦 （NPO法人 東京TVフォーラム　理事長）	240
「災害時における視聴覚障害者に対する情報保障の新しい試み」をテーマとしたシンポジウムの開催	IPTVアクセシビリティ研究会 代表　大嶋　雄三 （IPTVアクセシビリティコンソーシアム　事務局長）	180
Generation What? 導入事業を通してのトランスメディア展開および若者視聴者獲得の試み	アジア太平洋放送連合(ABU) 番組局長　紅粉　達広	170
西ヨーロッパにおける日本のテレビ番組の過去の成功と現在の衰退に関する調査及び分析：通商ダイナミクスと放送の方針、1975～2015年	神戸大学大学院人文学研究科 外国人リサーチフェロー Pelliterri　Marco	135
地域ワークショップ：ジャーナリストの安全確保	アジア太平洋放送開発機構（AIBD) 所長　Chang　Jin	155

（所属などは平成29年2月13日現在）　　　　計29件　3,100万円

〔技術開発〕

テーマ	申請者	助成金額（万円）
次世代ディスプレイへの応用を指向した高性能青色有機LEDの開発	九州大学稲盛フロンティア研究センター 教授　安田　琢麿	200
液晶性の有機半導体を用いたフレキシブル薄膜トランジスタの研究	東京工業大学科学技術創成研究院未来産業技術研究所 准教授　飯野　裕明	270
確率的誤差拡散法による高ダイナミックレンジ表示システムの開発	一関工業高等専門学校制御情報工学科 助教　佐藤　智治	250
ヘテロダイン光マイクロフォンを用いた音場イメージングによる音声映像コンテンツ作製技術の開発	神戸大学大学院システム情報学研究科 教授　的場　修	300
深海からの生放送実現のための高精度光追尾を用いた映像伝送技術	工学院大学工学部 教授　前田　幹夫	230
自律分散IoT技術を活用した放送システム	電気通信大学大学院情報理工学研究科 准教授　策力　木格	220
漫画・アニメーション解析に関する研究	大阪府立大学文書解析知識科学研究所 所長・教授　黄瀬　浩一	240
大画面テレビのための音響再生方式の研究	富山大学大学院理工学研究部 教授　安藤　彰男	200
認識タスクに応じて自動適応するスケーラブル音声認識システムの構築	名古屋工業大学大学院工学研究科 准教授　南角　吉彦	240
音質変換、音声認識・音声合成技術を利用した難聴者の聴き取りの改善に関する研究	福岡大学医学部 研究員　小野　博	290
放送を目的とした道路交通情報音声合成システムの開発	成蹊大学理工学部 准教授　世木　寛之	200
自然画像統計量と視覚科学に基づく効果的な放送映像制作の理論と技術開発	ジュネーブ大学医学部 研究員　田嶋　達裕	260

（所属などは平成29年2月13日現在）　　計12件　2,900万円

合計41件　6,000万円

第４２回「放送文化基金賞」受賞一覧

部門		賞（賞金）	受賞者	番組名・業績
番組部門	テレビドキュメンタリー番組	最優秀賞（100万円）	青森放送	第３０回民教協スペシャル しあわせ食堂　笑顔と孤独と優しさと
		優秀賞（50万円）	ＮＨＫ	ＮＨＫスペシャル 原発メルトダウン　危機の８８時間
		奨励賞（30万円）	北日本放送	ＫＮＢふるさとスペシャル 沈黙の７０年　富山大空襲と孤児たちの戦後
		奨励賞（30万円）	ＮＨＫ大阪放送局、ＮＨＫ神戸放送局	ＮＨＫスペシャル　震度７　何が生死を分けたのか ～埋もれたデータ　２１年目の真実～
		奨励賞（30万円）	テムジン、ＮＨＫ、ＮＨＫエンタープライズ	ＮＨＫスペシャル　女たちの太平洋戦争 従軍看護婦　激戦地の記録
	テレビドラマ番組	最優秀賞（100万円）	ＴＢＳテレビ	年末ドラマ特別企画　赤めだか
		優秀賞（50万円）	ＴＢＳテレビ	ＴＢＳテレビ６０周年特別企画 日曜劇場　天皇の料理番
		奨励賞（30万円）	ビーエス朝日	ＢＳ朝日開局１５周年記念番組 大江戸事件帖　美味でそうろう
		奨励賞（30万円）	ＮＨＫ福岡放送局	福岡発地域ドラマ　いとの森の家
	テレビエンターテインメント番組	最優秀賞（100万円）	東海テレビ放送	人生フルーツ　ある建築家と雑木林のものがたり
		優秀賞（50万円）	テレコムスタッフ、ＮＨＫ、ＮＨＫエデュケーショナル	100分de平和論
		奨励賞（30万円）	ＮＨＫ	ブラタモリ
		奨励賞（30万円）	山陰放送	水木しげる93歳の探検記　～妖怪と暮らした出雲国～
	ラジオ番組	最優秀賞（100万円）	ＣＢＣラジオ	贄の森
		優秀賞（50万円）	ＮＨＫ名古屋放送局	ＦＭシアター あいちゃんは幻
		奨励賞（30万円）	西宮コミュニティ放送	さくらＦＭスペシャル ～福山雅治「被爆クスノキ」へのメッセージ
		演技賞（20万円）	佐藤　健	ＴＢＳテレビ６０周年特別企画 日曜劇場　天皇の料理番
		演技賞（20万円）	樹木希林	福岡発地域ドラマ　いとの森の家
		企画賞（20万円）	小山田文泰	しあわせ食堂　笑顔と孤独と優しさと
		演出賞（20万円）	羽根井信英	100分de平和論
		脚本賞（20万円）	瀬戸山美咲	ＦＭシアター あいちゃんは幻
個人・グループ部門	放送文化	（30万円）	さだまさし （シンガーソングライター、小説家）	多才な活動を通して放送文化の発展・向上に貢献
		（30万円）	藤井　稔 （ＣＢＣテレビ プロデューサー）	優れたドキュメンタリー番組の制作と放送表現の開拓
		（30万円）	「被災地からの声」制作チーム （ＮＨＫ仙台放送局）	震災直後から５年間にわたるウィークリー番組「被災地からの声」の制作
		（30万円）	ＮＨＫ「ハートネットＴＶ」班 戦後70年関連 制作チーム（ＮＨＫ）	福祉の戦中戦後を振り返り、未来を考える一連の番組制作
	放送技術	（30万円）	FPU,SNG共用受信アンテナ開発グループ 代表　鈴村高幸（テレビ朝日）	FPU,SNG共用受信アンテナの開発
		（30万円）	廣田和浩（山陽放送）	HTML5を用いた自局放送プログラム確認システム「Tereco」の開発
		（30万円）	多視点ロボットカメラ開発グループ 代表　池谷健佑（ＮＨＫ）	多視点ロボットカメラによる「ぐるっとビジョン」を用いた新しい映像表現技術の開発
		（30万円）	伊藤正史（フジテレビジョン）	現行地上波でＨＤと４Ｋのサイマル視聴を実現する番組技術の開発

＊番組部門の各賞と個人・グループ部門は、受付順による。

（資料3）

他の賞への参加結果について

1.　2016年ＡＢＵ番組コンクール

＜テレビ8部門に181作品、ラジオ7部門に90作品が応募＞

※ 放送文化基金はスポンサーの一員として賞金を贈呈

表 彰 日　平成28年10月24日

場　　所　インドネシア・バリ

２．　第43回「日本賞」教育コンテンツ国際コンクール

＜企画部門への参加は31機関、34企画＞

表 彰 日　平成28年11月2日

場　　所　ＮＨＫ放送センター1階101スタジオ

受賞企画　『未来は私のもの』　（賞金　10,000ドル）

ノヴェラ・ニコン　氏

（ドゥルーパッド・コミュニケーション—

教育発達メディア／バングラデシュ）

※ 企画は番組化し、バングラデシュ国内で放送される予定。また、平成29年開催の「日本賞」コンクール開催期間中に上映される予定。

３－１．第41回創作テレビドラマ大賞

＜応募総数991編から、大賞1編、佳作2編が決定＞

表 彰 日　平成28年11月10日

場　　所　アルカディア市ヶ谷

大賞作品　『デッドフレイ』　佐々木　由美　氏（賞金　50万円）

３－２．第45回創作ラジオドラマ大賞

＜応募総数284編から、大賞1編、佳作1編が決定＞

表 彰 日　平成29年3月24日

場　　所　東越伯鷹ビル

大賞作品　『暗闇の訪問者』　藤沢　秋　氏　（賞金　50万円）

公益財団法人　放送文化基金
役員、評議員、審査委員 一覧

○ 役　員

理事長(非常勤)	末松　安晴	東京工業大学栄誉教授
理　事(非常勤)	藤井　宏昭	国際交流基金顧問
理　事(非常勤)	箕浦　康子	お茶の水女子大学名誉教授
理　事(非常勤)	大石　芳野	写真家、日本大学客員教授
理　事(非常勤)	濱田　純一	東京大学名誉教授
専務理事(常　勤)	﨑元　利樹	元日本放送協会大阪放送局長
監　事(非常勤)	清水　孝雄	TBS社友
監　事(非常勤)	菅　康弘	日本放送協会経営企画局長

○ 評 議 員

青木　隆典	日本民間放送連盟常務理事
青木　保	国立新美術館館長
池辺　晋一郎	作曲家
上田　良一	日本放送協会会長
小田島　雄志	東京大学名誉教授
音　好宏	上智大学教授
加藤　剛	俳優
木田　幸紀	日本放送協会専務理事
マーシャ・クラッカワー	聖心女子大学教授
今野　勉	演出家、脚本家
鈴木　幸一	インターネットイニシアティブ 代表取締役会長CEO
高島　肇久	海外通信・放送・郵便事業支援機構取締役会長
高橋　正美	日本放送協会経営委員会委員
遠山　敦子	トヨタ財団理事長
長尾　真	元国立国会図書館長
中村　桂子	JT生命誌研究館館長
西條　温	日本ケーブルテレビ連盟会長
長谷部恭男	早稲田大学大学院教授
羽鳥　光俊	東京大学名誉教授
福地　茂雄	新国立劇場顧問
向井　千秋	宇宙航空研究開発機構技術参与
山田　太一	脚本家
吉田　喜重	映画監督

○ 助成 審査委員

技術開発	委員長／	今井　秀樹	東京大学名誉教授
	委　員／	一方井克爾	TBSテレビ技術局長
		伊東　晋	東京理科大学教授
		白井　克彦	放送大学学園理事長
		春口　篤	日本放送協会技術局長

人文社会・文化	委員長／	黒崎　政男	東京女子大学教授
	委　員／	安齋　尚志	日本放送協会理事
		安藤　裕康	国際交流基金理事長
		佐藤　卓己	京都大学大学院教授
		白石　さや	東京大学名誉教授
		山口いつ子	東京大学大学院教授

○ 放送文化基金賞 審査委員

委員長／	吉田　喜重	映画監督
委　員／	青木　隆典	日本民間放送連盟常務理事
	河合祥一郎	東京大学大学院教授
	木田　幸紀	日本放送協会専務理事
	金田一秀穂	杏林大学教授
	河野　尚行	放送批評家
	羽鳥　光俊	東京大学名誉教授
	堀川とんこう	演出家

（平成29年3月31日）